

高齢者見守りと民間救急が連携 おきでん CplusC などが共同実証 名護市で県内初

2025 年 9 月 5 日 8:02

#沖縄の経済 #高齢者 #民間救急 #おきでん CplusC

おきでんCplusC(シープラスシー、浦添市)は、民間救急搬送のフィルタス(名古屋市)、官民連携型救急搬送システムに取り組む非営利団体のOPHIS(オピス、東京都)と連携し、名護市街地で約50世帯の高齢者に見守りサービスを提供する共同実証を始めた。情報通信技術(ICT)を活用した見守りの仕組みと、消防から認定を受けた民間救急事業者が連携する実証モデルは県内で初めてで、全国でも先駆的な取り組み。2カ月間の実証を通して地域支援モデルを構築する。

おきでんシープラスシーは、Wi-Fiセンサーで高齢者の活動や睡眠状況を確認し、異常があれば家族や親戚、地域、自治体に知らせるサービス「やさしいみまもり」を提供する。



フィルタスが運行する患者搬送車両の内部。本物の救急車並みの設備がそろう



高齢者の見守りで連携する(左から)OPHISの前原俊彦副代表、おきでん CplusCの上原康志ゼネラルマネージャー、フィルタスの三輪琴未営業企画本部長、米川高弘救急救命士、崎原大雅氏、森野友路沖縄事業所長＝1日、那覇市久茂地

従来は(1)家族や親戚(2)自治会や民生委員(3)役所や包括支援センターなど順に通知しているが、実際には(2)と(3)が対応することが多く、共助や公助の負担が増す懸念があった。そこで民間救急事業者と連携し、体制の強化と自助の促進を促す。

サービスの品質を保持するため、フィルタスが役所や消防などの自治体と業務委託契約を結ぶ。その上で家族が見逃した場合にシステムからの通知を受けて電話や訪問で確認したり、家族や地域から出動要請を受けて訪問したりする。必要なら消防に通報する。

おきでんシープラスシーの上原康志ゼネラルマネージャーは「持続可能で実効性がある理想的な形だ。導入につながるよう、しっかりと実証に取り組みたい」と抱負を述べた。(政経部・川野百合子)

